

現地を訪問して思うこと

北野由美

東日本大震災から 2 年半がたち被災地の現状を実際に訪れて体感したいという思いから、東北応援ツアーに参加した。

仙台駅は何もなかったかのように多くの人で賑わっている一方、津波の被害を受けた南三陸では鉄筋のみとなった防災対策庁舎がぼつんと建っている対照的な光景があった。住民に避難を呼びかけ自らが命を落とされた職員の方を思いながら建物の前で黙とう。被災地を訪れるのは二度目であるがいつも自分に何ができるのだろうかと考えてしまう。

南三陸プラザでの勉強会に参加し、南三陸観洋ホテルの女将や佐々圭かまぼこの佐々木社長の話をうかがう。「町が日常を取り戻すためにも訪れてほしい」「風化させないためにも現地を訪れて感じたことを 1 人でも多くの人に伝えて欲しい」 地元の方々の心からの声だった。まだまだ復興されていない現状、防災・減災に対する備えの大切さ、震災の悲惨さ風化させないように語り継ぐことの大切さを感じた。

現地を訪れ、食べて、買って、泊まって普通に観光することでも地元の方々の復興支援につながるのだ。東北の温泉や山々を楽しみ、おいしい東北の食材を味わうこと。そんな肩肘張らず私にもできる復興支援をこれからも続けようと思った有意義な旅だった。